

B型肝炎患者による患者講義

授業の目的

私たちは、集団予防接種等の際の注射器等の連続使用により、B型肝炎ウイルスに感染し、被害を受けました。私たちの被害およびその教訓を伝えることで、今後二度と同じような被害が生じないようにしてほしい、医療に携わる方々に医療安全の重要性を実感してほしいと願っています。

また、私たちB型肝炎患者の症状、治療の辛さ、偏見や差別を受けた体験、偏見や差別を恐れる気持ち、医療関係者の言動により患者が感じる気持ち等について生の声を伝えることで、B型肝炎患者（や患者の家族）の状況や気持ちを理解してもらい、患者に寄り添うことのできる医療従事者になってほしいと願っています。

私たちは全ての患者が安心して暮らすことができる社会の実現を目指し、患者講義を行っています。「いのち」に向き合う教育の実施にご協力ください。

実施場所：貴校内、または貴校の指定した会場

実施時間・授業内容：貴校のご要望に応じて決定します。

対象人数：不問 ※学年、クラス数は問いません。1クラスから全校生まで対応可能です。

申込方法

①「講師派遣依頼書」（添付の申込用紙）に必要事項をご記入の上、電子メール、FAX、郵送のいずれかにて事務局までお送りください。受理後、事務局より日程・内容についてご確認・調整させていただきます。

※よりよい講義を準備するために、講義実施日より3ヶ月前にはご依頼いただくようお願いします。

②授業実施後、実績報告書（簡単なアンケート）のご記入のご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先

全国B型肝炎訴訟原告団・弁護団

（お問い合わせ窓口）西田・真鍋法律事務所

〒590-0072 大阪府堺市堺区中向陽町2丁3-13 西田司法ビル 4階

TEL:072-225-5111 FAX:072-225-5112

E-mail info@nishida-atsushi-law.jp



「B型肝炎患者による患者講義」

の実施例

全国B型肝炎訴訟原告団・弁護団

(西田・真鍋法律事務所)

TEL:072-225-5111 FAX:072-225-5112

E-mail info@nishida-atsushi-law.jp

営業時間:9:30~17:30 休業日:土・日・祝日

**生徒・学生が肝炎問題について理解を深め、
肝炎患者が安心して暮らせる社会になり、
二度と同じ苦しみを味わう人を出さないように。**

「患者講義」とは『B型肝炎の患者・家族が、自分の体験を語ることを通じて、B型肝炎や過去の過ちについて知ってもらい、偏見・差別を解消し、同じ過ちを繰り返させないようにする取り組み』のことです。B型肝炎の正しい知識を知ってもらうとともに、患者本人の生の声をお伝えしています。

私たち原告団・弁護団は、医学教育において、B型肝炎のこと、患者・家族のことを知らない人に知ってもらうことが大切だと考えています。患者・家族の経験を伝えることは、同じ過ちを繰り返させないこと、医療安全の重要性を実感すること、偏見・差別を解消することにつながります。なぜなら、被害を受けた人の気持ちや、偏見・差別を恐れる人の気持ちが理解できるようになるからです。



授業内容(タイムスケジュール)例

5分	冒頭説明 自己紹介、患者講義の趣旨説明
20分	弁護士による説明 B型肝炎についての基本的な知識、感染が拡大した歴史的な経過
20分	B型肝炎患者からの体験談 病気の苦しみ、偏見・差別を受けたことの心のいたみ、家族に与えた影響等
20分	弁護士による説明 患者の体験を踏まえて、患者の状況と正しい知識について
10分	質疑応答
10分	アンケート記入
5分	まとめ
合計 90分	※上記は一例であり、講義時間・内容は、学校のご希望に応じて変更いたします。

学生・生徒からの講演に関する感想

(学生からの感想)

- ・今後、看護師になるにあたり、患者さんの精神的ケアもさることながら、正しい知識を持つことが重要だと思った。
- ・感染を防ぐことだけに目がいってしまって、患者さんの気持ちについて考えていませんでした。これからに活かしたい。
- ・誰もが感染症になるリスクはあるので、区別も差別もせず、患者さん全員に同じ態度で接するし、心に寄り添えるようにしたい。
- ・初めて肝炎に触れ、昔の社会や今の社会についても考えさせられる授業だった。

(学校担当者からの感想)

- ・患者さんに直接講義をしていただいている授業は、教員(第三者)が話すよりも実際に経験された方の言葉の方が説得力があること、患者さんが自身の病気や取り巻く社会をどのように受け取るかといったことは、患者さん自身しか語りすることができない点になると思う。
- ・患者さんが経験された様々なこと(思い出したくもないいやなことをふくめ)を、お話いただき本当に良かった。我々医療従事者は、専門家なので日常研鑽を積むのは当たり前だが、表面上ではなかなかわからない真の患者さんの気持ちに寄り添う気持ちが大変だ。

